

19 教職に関する科目

授業科目	教職入門	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕1年 〔学期〕後期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教職の意義や役割について、実際の学校におけるその職務内容や身分等を含めて理解し、あわせて児童生徒への進路選択の機会提供に資する教師の役割について考察する。</p> <p>【概要】本科目は、教員免許の取得に必要な科目であり、「教職の意義」について検討考察し、学校で働く教師の職務内容、すなわち教育活動とサービスの関係、研修や身分とその保障について扱う。また近年、学校教育と実社会の繋がりが着目され、その際重要となる教職員の役割として進路選択を可能にする力の育成、すなわちキャリア教育についても扱う。講義を中心とするが、必要に応じて資料に関連した文献、記事、VTR等を取り入れる。</p> <p>【到達目標】「教職とは何か」という点についての理解につぎるが、教職の意義および教員の役割、教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)に関する知識を習得すること。子どもたちの進路選択と教職の関係を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 嶺井正也編『ステップアップ教育学』八千代出版 2010年 (2) 授業内で随時紹介する。		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 教職員免許法における本科目の位置づけなど</p> <p>第2回 教える・教えられる関係の変遷1 古代のソクラテスの対話法や中世の徒弟訓練の親方について</p> <p>第3回 教える・教えられる関係の変遷2 江戸時代の寺子屋の師匠や産業革命期のヨーロッパで発生した近代学校の教師</p> <p>第4回 教える・教えられる関係の変遷3 教職の位置づけについて、戦前の教師聖職論から戦後の専門職論へ</p> <p>第5回 現代学校における教師の役割と仕事1 学校における教員の日常と職務内容</p> <p>第6回 現代学校における教師の役割と仕事2 学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談</p> <p>第7回 現代の教師の身分と地位1 教員養成制度と研修制度</p> <p>第8回 現代の教師の身分と地位2 教員の服務・身分と公務員制度</p> <p>第9回 学校における分業制の理解 学校での少数職種、校内分業体制と校務分掌、教職の全体性</p> <p>第10回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割1 いじめ・不登校への地域と連携した対応、学校を取り巻く社会での連携、自然体験</p> <p>第11回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割2 進路選択とキャリア教育、社会体験のコーディネーターとしての役割、職業観の涵養</p> <p>第12回 教師の資質をめぐる動き1 戦後の教員政策の変遷</p> <p>第13回 教師の資質をめぐる動き2 学校評価・教員評価・不適格教員・心の健康</p> <p>第14回 これからの教師に求められるものは何か 生涯学習社会における教師の成長の意義</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回、次回分の資料を配付するので読んでおくこと。		
成績評価の方法	授業中のミニ・レポート(3回程度)30%、筆記試験70%		

(注)

授業科目	教育原理	担当者	田口康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕1年 〔学期〕前期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> <p>【概要】教員になるために必要な教育学の知識として、最低限身につけておくべき教育学の理論を踏まえつつ、実際の教育を分析的に見る目を養うことがねらいである。主として学校教育を中心に考察する。教育の目標・意義・思想・歴史・制度に関する広汎かつ基礎的な知識理解の習得を目指す。具体的には、現代の学校教育を支える近代公教育史及びその思想の理解である。最新の教育実践・学校経営の事例の紹介など、今日的なトピック・情報を数多く取り入れて講義を進める予定である。</p> <p>【到達目標】教育の理念や歴史に関する基礎的な知識理解の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 嶺井正也編『ステップアップ教育学』八千代出版 2010年 (2) 参考文献は随時紹介する		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この科目の位置づけと目的</p> <p>第2回 教育とは何か その目的と機能に関する教育思想の理解</p> <p>第3回 現代の学校と教育課題 今日の学校教育を取り巻く「問題行動」について理解する</p> <p>第4回 近代公教育思想1 ジョン・ロックとルソーの人間観・教育思想について理解する</p> <p>第5回 西洋での学校の出現 中世から近代にかけて簇生した学校や大学について理解する</p> <p>第6回 近代公教育思想2 ペスタロッチとヘルバルトの教育思想について理解する</p> <p>第7回 日本における学校の成立 明治5年の学制の意義と社会的役割について理解する</p> <p>第8回 近代公教育思想3 日本の教育の原型を創った森有礼と師範学校教育について理解する</p> <p>第9回 日本における学校教育の展開 大正期から昭和初期にかけての学校改革運動の発生とその結末について理解する</p> <p>第10回 戦後日本の教育改革 戦後日本の学校教育の原型となった教育改革について理解する</p> <p>第11回 戦後日本のカリキュラムの改革史 学習指導要領の変遷とその重点の変化について理解する</p> <p>第12回 日本の1950年代～80年代の教育改革 中央教育審議会・臨時教育審議会による教育改革について理解する</p> <p>第13回 世界の教育改革とPISA 1970年代から今までの各国の教育改革とPISAについて理解する</p> <p>第14回 新しい学習指導要領 平成24年度完全実施（中学校）の学習指導要領の改正点について理解する</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習（予習・復習）	毎回、次回分の資料を配付するので読んでおくこと。		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	教育心理学		担当者	田中 真理
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマと概要】 教育活動とは、教育対象に対して、教育や指導といった働きかけを行うことで、対象がよりよい方向に変化する過程と定義されている。そしてより効果的な教育活動を行うための知識や技術を提供する学問領域として教育心理学がある。本講義では、教育対象である子どもの発達の特徴とパーソナリティの理解、学習指導において重要な学習に関する理解、教育対象の変化や学習の成果に関する評価について学ぶ。またこれらの知識が実際の教育現場でどのように活かすことができるかについても考えていく。</p> <p>【到達目標】 教育活動の対象となる子どもの心理特性や発達の特徴、特別な配慮が必要な子どもの特徴、教育活動の一つである学習に関わる理論や概念、教育評価の考え方について理解することを目指す。さらに習得した知識を教育現場でどのように活かすことができるのかという視点の習得を目指す。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション 第 2回 発達①：乳幼児～児童期 第 3回 発達②：思春期・青年期 第 4回 発達③：特別な配慮が必要な子どもたち 第 5回 学習①：学習理論 第 6回 学習②：学習意欲・動機づけ 第 7回 学習③：記憶 第 8回 学習④：思考・推論 第 9回 学習⑤：知能 第10回 学習⑥：教授法 第11回 評価①：教育評価 第12回 評価②：知能検査 第13回 パーソナリティ①：パーソナリティ理論 第14回 パーソナリティ②：パーソナリティ検査 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +リアクションペーパー (30%)			

(注) 生活科学専攻のみ卒業要件単位に参入できる。

授業科目	教育行政学概論		担当者	岩橋 法雄
	[履修年次] 2年		授業外対応	レポートを課して復習、予習の対応をさせる。質問も受ける。
	[学期] 前期集中	[単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代日本の教育の行政・制度</p> <p>【概要】 日本の教育の管理運営は、誰(Who)が、誰(Whom)を、どのようなルール(which principles)で、行われているのか？その仕組みと今後考えるべき課題を、歴史的かつ比較的考察していく。「誰が」は直接的には教育行政機関(文部科学省、教育委員会)であるが、まずは教育委員会の委員長と教育長の違いから説き起こそう。それは、教育委員会の理念の解説をすることとなるからである。「誰を」は学校教育だけではないのだが当面は学校を中核に説き起こし、子どもの権利条約の立場から考察する。「どのような・・・」は、案外みなさんに関心を持たれていないが、学校で学び、生活する私たちに密接に関係している<教育の法律に関すること>である。教育の様々な分野での法とその意味を歴史的に、そして構造的に概観する。</p> <p>【到達目標】 日本の教育行政・制度、公教育経営の基本的な事項について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「教育行政」の歴史的成立とその基本的性格 (2) 授業中に随時指示</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 教育行政の歴史的成立とその基本的性格 ・ゲルマン型とアングロ・サクソン型 (Administration と Governance) の相違と特質 第 2回 学校、選ばれる学校とそうでない学校 (unpopular と popular) の相克。 教育の制度と管理運営。 第 3回 戦後日本の教育行政の基本原則、その歴史的変遷 ・1945年教育基本法の「教育行政」観、教育委員会委員長と教育長 (レイマン・コントロールの意味)、教育委員会の基本的性格 第 4回 変化する社会と教育委員会の改革論議と動向1 第 5回 新教育基本法の「教育行政」観。日本の教育行政機関・文部科学大臣・文部科学省、教育委員会(教育委員会の構成と権限) 第 6回 教育関連諸法規の概要 第 7回 教師と法 ・公務員としての教師は、何ができて何ができないか？(身分上の問題)、対生徒の関係において、何ができて何ができないか？(①体罰になること、ならないこと、②校長の権限、教諭の権限) 第 8回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業中に課すレポート(30%) 並びに最終試験(70%) によって評価する			

※7.5回

授業科目	教育課程論		担当者	森田司郎
	[履修年次]	1年次	授業外対応	田口のメール
	[学期]	後期集中	[単位]	1
			[必修/選択]	教職必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育課程とカリキュラムの基本概念、編成原理、そして現状と課題についての整理と考察。</p> <p>【概要】日本の学校教育における教育課程は、主に学習指導要領によって規定されている。また、実際の学校教育の場面では、各学校の現状、教員文化、そして子どもたちの実態などによって、様々な学習経験（カリキュラム）が生み出されている。本講義では、これらの教育課程およびカリキュラムの基本概念、編成原理、そして現在の教育課題について概説する。さらに、現在の教育課題に対応するために必要なカリキュラム編成の視点について受講生と討議し、教員として有益な子どもの学習経験を生み出すために必要な力量を身につける。</p> <p>【到達目標】教育課程およびカリキュラムの基本概念、編成原理について理解し、それを説明できる。現在の教育課題について理解し、その対策について意見を持ち、説明できる。現在の教育課題に対応するために必要なカリキュラム編成の視点について独自の見解を持ち、それを説明できる。</p>			
(1)テキスト	(1) 必要に応じて授業内で配布する。			
(2)参考文献	(2) 『公平な社会を築く公教育論』嶺井正也編 八千代出版 2015年			
授業スケジュール	<p>第1回 教育課程とカリキュラム 教育課程とカリキュラムの基本概念についての理解</p> <p>第2回 学習指導要領 これまでの学習指導要領の変遷と現行の学習指導要領の内容についての理解</p> <p>第3回 教育課程編成に関わる教育原理 子どもの学習に関する諸原理や新たな教育方法についての理解</p> <p>第4回 カリキュラムの諸相 計画レベル、実施レベル、経験レベルそれぞれのカリキュラムの特質についての理解</p> <p>第5回 現在の教育課題とカリキュラムの在り方 (1) 学力問題・児童生徒の問題行動に対応するカリキュラム編成の視点についての検討と理解</p> <p>第6回 現在の教育課題とカリキュラムの在り方 (2) IT化・国際化に対応するカリキュラム編成の視点についての検討と理解</p> <p>第7回 プレゼンテーション 現在の教育課題に対応するために必要な視点について自分の意見を発表する</p> <p>第8回 まとめと試験 講義内容のまとめと、確認するための試験を実施する</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業において指示する			
成績評価の方法	筆記試験 60%、授業内の課題 40%			

※7.5回

授業科目	国語科教育法		担当者	竹本 寛秋
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また、模擬授業により、実践的な授業の能力を身につける。</p> <p>【概要】</p> <p>中学校学習指導要領を読み解き、現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で、授業を計画し、指導案を作成し、授業を実施する流れを修得する。そのために、指導案を作成し、模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業、および模擬授業の振り返りを行うことで、授業を客観的にとらえる能力を修得し、授業研究の意義を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>中学校国語科教育の意義を説明できる。学習指導案を作成することができる。 模擬授業の振り返りを通して、客観的な観点から授業研究ができる。</p>			
(1)テキスト	(1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』、プリント。			
(2)参考文献	(2) 授業中、適宜紹介する。			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：中学校国語科の目標と内容</p> <p>第2回 中学校学習指導要領 国語編について</p> <p>第3回 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の目標と内容</p> <p>第4回 「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の目標と内容</p> <p>第5回 教材研究の方法 (1)</p> <p>第6回 教材研究の方法 (2)</p> <p>第7回 学習指導案の作成 (1)</p> <p>第8回 学習指導案の作成 (2)</p> <p>第9回 模擬授業の意義</p> <p>第10回 模擬授業 (1)</p> <p>第11回 模擬授業 (2)</p> <p>第12回 模擬授業 (3)</p> <p>第13回 模擬授業 (4)</p> <p>第14回 教育実習について</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	指導要領の内容の予習、復習のほか、模擬授業の準備、学習指導案の作成など。			
成績評価の方法	学習指導案の作成 (50%)、模擬授業についてのレポート (50%)			

(注) 卒業要件単位に参入できる。

授業科目	英語科教育法		担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 2	[授業外対応] 適宜対等
	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、未来の英語教師に求められる英語教育指導法の理論について理解を深めるとともに、その実践能力を身につけることです。</p> <p>【概要】英語科教育を理論と実践の両面から捉え、中学校の英語教師にとって必要な知識と技能を身につけることを第一義とします。さらに、外国語（英語）教育の指針となる学習指導要領を理解し、実践的なコミュニケーション能力を育成するための英語の授業の構築と効果的な指導法を模索していきます。また、これらを踏まえた上で、指導案の作成および模擬授業による実践力を習得していきます。</p> <p>【到達目標】中学校学習指導要領に掲げられている目標と内容を理解する。 中学校の英語科教育に必要な知識及び実践的な教育技法を身につける。 指導案を作成する力を養い、教育実習で実際に授業が行えるよう模擬授業を行う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岡秀夫編著 『グローバル時代の英語教育—新しい英語科教育法』 出版社：成美堂 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 出版社：開隆堂</p> <p>(2) 参考文献は授業時に随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 英語科教育の目的 / 英語の国際化 第2回 中学校学習指導要領 外国語編 / 小学校における外国語活動 第3回 英語教授法の種類と史的変遷 第4回 コミュニケーション能力 第5回 4技能の指導法 (1) リスニング 第6回 4技能の指導法 (2) スピーキング 第7回 4技能の指導法 (3) リーディング・ライティング 第8回 教科書と教材研究 第9回 授業構成 (指導手順) / 授業ビデオ視聴 第10回 学習指導案 (1) / 授業ビデオ視聴 第11回 学習指導案 (2)・教材・教具 ・クラスルームイングリッシュ / 授業ビデオ視聴 第12回 模擬授業 (1) 第13回 模擬授業 (2) 第14回 模擬授業 (3) 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習のためのテキストの講読、課題の作成			
成績評価の方法	振り返りシート (30%) + 課題のレポート (30%) + 学習指導案の作成 (20%) + 模擬授業についてのレポート (20%)			

(注) 卒業要件単位に参入できる。

授業科目	家庭科教育法		担当者	富山 裕子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業外対応] 教員採用試験過去問演習課題 (毎時授業で確認・補足)
	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身につける。</p> <p>【概要】中学校における家庭科教育に求められていることを理解し、学習指導要領を踏まえた教科の目標と内容の理解及び学習指導計画に基づいた指導案の作成や模擬授業による授業実践力の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】・家庭科教育の意義を理解できる。 ・学習指導要領を踏まえた家庭科の指導目標と評価について理解した授業計画及び学習指導案の作成ができる。 ・立案した学習指導案に拠った模擬授業の実践と考察ができ、</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田部井恵美子・内野紀子 外 共著 「家庭科教育法」 学文社 (2) 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力 第2回 家庭科教育のあゆみと今日的課題 第3回 教科教育としての家庭科教育の理念と特徴 第4回 家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題 第5回 小・中・高等学校の指導目標と内容 第6回 家庭科教育の学習指導 第7回 家庭科教育の学習指導計画 第8回 中学校の「技術・家庭 (家庭分野)」の指導目標と内容 第9回 中学校の「技術・家庭 (家庭分野)」の教材と学習指導計画 第10回 中学校の「技術・家庭 (家庭分野)」における評価 第11回 中学校の「技術・家庭 (家庭分野)」の学習指導案作成 (本時案) 第12回 中学校の「技術・家庭 (家庭分野)」の学習指導案 (本時案) に基づいた授業の展開 (模擬授業) 第13回 模擬授業の振り返りと相互評価 第14回 家庭科教育における学習環境の整備 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	課題：教員採用試験過去問演習			
成績評価の方法	筆記試験 (60%) 提出物 (学習指導案20%, 模擬授業についてのレポート20%) で評価する。			

(注) 卒業要件単位に参入できる。

授業科目	道徳教育の研究	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】 2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日的な「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日的な意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を「学校教育全体を通して行う」ことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】 道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と、道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 文部科学省</p> <p>(2) 随時、指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史（道徳教育の経緯や特徴）について理解する</p> <p>第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ</p> <p>第3回 道徳の目標及び内容 —道徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する</p> <p>第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ</p> <p>第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ</p> <p>第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ</p> <p>第7回 新たな「道徳教育」の課題 人権教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など</p> <p>第8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（2回程度）30%、試験70%		

※ 7.5回

授業科目	道徳教育論	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕2年(栄養教諭課程履修者) 〔学期〕前期 〔単位〕1単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日的な「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日的な意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を「学校教育全体を通して行う」ことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】栄養教諭として必要な道徳教育に関する基本的な知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)『小学校学習指導要領解説 道徳編』『中学校学習指導要領解説 道徳編』文部科学省 (2)随時、指示する		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史(道徳教育の経緯や特徴)について理解する</p> <p>第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ</p> <p>第3回 道徳の目標及び内容 一 道徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する</p> <p>第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ</p> <p>第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ</p> <p>第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ</p> <p>第7回 新たな「道徳教育」の課題 人権教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など</p> <p>第8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)30%、試験70%		

※ 7.5回

授業科目	特別活動の研究	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕2年 〔学期〕前期 〔単位〕1単位 〔必修/選択〕必修(注) 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における「特別活動」の理解</p> <p>【概要】入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、新学習指導要領等に記載された目標・内容を理解し、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。</p> <p>【到達目標】中学校における「特別活動」について基本的事項を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)文科省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標</p> <p>第2回 「特別活動」とは何か、</p> <p>第3回 「学級活動」の目標と内容</p> <p>第4回 「生徒会活動」の目標と内容</p> <p>第5回 「学校行事」の目標と内容</p> <p>第6回 「特別活動」の現代的な意義</p> <p>第7回 「体験的活動」「キャリア教育」など</p> <p>第8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)および、最後のレポート等を総合して評価する。		

※ 7.5回

授業科目	特別活動論	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕2年(栄養教諭課程履修者) 〔学期〕前期 〔単位〕1単位 〔必修/選択〕必修(注) 〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小・中学校における「特別活動」の理解</p> <p>【概要】入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、新学習指導要領等に記載された目標・内容を理解し、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。</p> <p>【到達目標】小・中学校における「特別活動」について基本的事項を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)『小学校学習指導要領解説 特別活動編』『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文科省 (2)授業において紹介する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容 第6回 「特別活動」の現代的な意義 第7回 「体験的活動」「キャリア教育」など 第8回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)および、最後のレポート等を総合して評価する。		

※ 7.5回

授業科目	教育方法学概論	担当者	元井 一郎
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期集中 〔単位〕 1 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育方法に関する史的な展開をふまえ、現代的な教授方法についての理解を深める。</p> <p>【概要】教育方法史に関する概括的な整理を行い、現代の学校教育において注目されている教授方法の理論的な視角および特徴を確認する。</p> <p>【到達目標】教授理論の史的な展開を把握できる。教授方法の理論的な基礎を説明できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 特に指定しない。 (2) 嶺井正也編著『公平な社会を気付く公教育論』八千代出版		
授業スケジュール	第1回 教育方法の理論とその構成 第2回 教育方法論の史的展開1(ヨーロッパ 16世紀から19世紀) 第3回 教育方法論の史的展開2(ヨーロッパ 19世紀後半から現代) 第4回 教育方法論の史的展開3(日本近代教育と教育方法) 第5回 教育方法論と史的展開4(日本現代教育と教育方法) 第6回 現代教育方法論の特徴1(学習理論と教育方法) 第7回 現代教育方法論の特徴2(学習理論の発展と教授法) 第8回 学習と教授法の構造的課題 第9回 授業研究とその展開1(授業研究の歴史) 第10回 授業研究とその展開2(授業研究の理論) 第11回 授業研究の課題 第12回 教育方法論と教育評価 第13回 教育方法論と学校改革 第14回 教育方法論の現代的課題 第15回 講義のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	集中講義であるため、手交するプリントの内容は必ず復習すること。		
成績評価の方法	レポート		

授業科目	教育相談		担当者	田中 真理	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマと概要】</p> <p>学校での教育相談とは、生徒が生きがいをもって日々の生活を送り、一人の社会人として生徒できるように指導や援助を行う教育実践である。本講義では、発達心理学、臨床心理学、学校心理学といった観点から、学校という場で教師という立場から児童生徒にかかわる際に必要となる知識や技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①教育相談を実践するうえで必要となる知識を習得する。 ②生徒の問題に応じた援助の在り方を実践的に理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 教育相談とは 第3回 教育相談の意義 第4回 児童生徒の理解①：児童生徒の「問題」理解 第5回 児童生徒の理解②：アセスメントの方法 第6回 カウンセリング①：カウンセリングの理論 第7回 カウンセリング②：カウンセリングの技法 第8回 カウンセリング③：学校カウンセリング 第9回 校内での協力体制 第10回 他機関との連携 第11回 教育相談の実際①：不登校 第12回 教育相談の実際②：いじめ・非行 第13回 教育相談の実際③：発達障がい 第14回 教師のためのストレスマネジメント 第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +リアクションペーパー (30%)				

授業科目	生徒指導論		担当者	田中 真理	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマと概要】生徒指導は、学習指導とならぶ、学校教育のなかで教師が行う重要な教育活動のひとつである。本講義では、生徒指導やその延長線上に続けられる進路指導を行うための基礎知識と、それらに関連する心理学の知識について学ぶ。加えて、児童生徒の不適応等に関する問題の背景についても理解し、具体的な教育的支援のあり方について考える。</p> <p>【到達目標】①生徒指導に関連する理論や知識を実践的に理解する。 ②生徒指導上の問題の背景を多面的、多角的に理解し、教育的支援について実践的に理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは 第2回 児童生徒の理解 第3回 学級集団①：児童生徒と教師の関係 第4回 学級集団②：児童生徒の仲間関係 第5回 心理教育①：グループエンカウンター 第6回 心理教育②：ソーシャルスキル・トレーニング 第7回 特別支援教育①：発達障害の理解 第8回 特別支援教育②：発達障害への対応 第9回 学校教育の諸問題①：不登校 第10回 学校教育の諸問題②：いじめ 第11回 学校教育の諸問題③：非行 第12回 学校教育の諸問題④：メンタルヘルスの問題 第13回 進路指導・キャリア教育とは 第14回 進路指導・キャリア教育の実際 第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +リアクションペーパー (30%)				

授業科目	生徒指導原論	担当者	田中 真理
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単 位	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマと概要】生徒指導は、学習指導とならぶ、学校教育のなかで教師が行う重要な教育活動のひとつである。本講義では、生徒指導やその延長線上に続けられる進路指導を行うための基礎知識と、それらに関連する心理学の知識について学ぶ。加えて、児童生徒の不適応等に関する問題の背景についても理解し、具体的な教育的支援のあり方について考える。</p> <p>【到達目標】①生徒指導に関連する理論や知識を実践的に理解する。 ②生徒指導上の問題の背景を多面的、多角的に理解し、教育的支援について実践的に理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション・生徒指導とは 第 2回 学級集団①：児童生徒と教師の関係 第 3回 学級集団②：児童生徒の仲間関係 第 4回 特別支援教育 第 5回 学校教育の諸問題①：不登校・いじめ 第 6回 学校教育の諸問題②：非行・メンタルヘルスの問題 第 7回 進路指導・キャリア教育 第 8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) +リアクションペーパー (30%)		

※ 7.5回

授業科目	教職実践演習（中学校教諭）	担当者	田口康明, 田中真理, 竹本寛秋, 土持かおり, 坂上ちえ子, 田口康明
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>【概要】：短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2) 学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用の説明を行う。</p> <p>第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回：[ロールプレイ(1)]</p> <p>第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。</p> <p>第7回：[振り返り講演]についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回：[学校見学] (11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。)教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。</p> <p>第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察</p> <p>第11回：[模擬授業(1)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第12回：[模擬授業(2)] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第14回：[グループ討論(4)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科等の指導の重点について討論活動を行い、授業計画や学習形態の工夫を定着させる。</p> <p>第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

(注) 生活科学専攻のみ卒業要件単位に参入できる。

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	町田和恵・中馬和代・田口康明・田中真理
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】 教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』、文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房） (2) 適宜紹介する。		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明。</p> <p>第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。</p> <p>第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。</p> <p>第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎、生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし、時期は未定。</p> <p>第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。</p> <p>第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察を行う。</p> <p>第11回：[模擬授業(1)]教室の場面を想定した実践的な指導力を身につける。</p> <p>第12回：[模擬授業(2)] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。</p> <p>第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。</p> <p>第14回：[グループ討論(4)] 給食の時間における食に関する指導の重点に検討する。</p> <p>第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む）	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 5単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 実習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における教育実習</p> <p>【概要】教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があってこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。</p> <p>【到達目標】事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し、実際に教育実習を行い、事後においては、実習において習得した知識技能を定着させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2) 学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。 第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性 第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。 第3回 模擬授業（1） 第4回 模擬授業（2） 第5回 模擬授業（3） 第6回 教育実習に関わる実務について 第7回 教育実習の反省と総括，採用試験に向けて 教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。 この他、「人権教育」に関する講演会を事前又は事後に実施。		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。		

授業科目	栄養教育実習		担当者	町田 和恵	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期集中	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省「食生活学習教材」</p>				
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <p>1, 指導教諭等からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営 ・校務分掌の理解 ・服務 等 <p>2, 児童及び生徒への個別的相談, 指導の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導, 相談の場の参観, 補助 等 <p>3, 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動及び給食の時間における指導の参観, 補助 ・教科等における教科担任等と連携した指導の参観, 補助 ・給食放送指導, 配膳指導, 後片付け指導の参観, 補助 ・児童生徒会, 委員会活動, クラブ活動における指導の参観, 補助 ・指導計画案, 指導案の立案作成, 教材研究 等 <p>4, 食に関する指導の連携・調整の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内における連携・調整(学級担任, 研究授業の企画立案, 校内研修等)の参観, 補助 ・家庭・地域との連携・調整の参観, 補助 等 <p>5, 学校給食の管理を一体的に担う方法</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	実習先評価(60%) + 実習ノート・実習への取り組み態度(40%)により評価する。				

授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導		担当者	町田 和恵	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省「食生活学習教材」</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教育実習のオリエンテーション 意義や目的, 心構えなど</p> <p>第2回 実習の評価の方法, 実習後の提出物(実習ノート, 学習指導案など), 実習中の短大との連絡方法などの指導</p> <p>第3回 指導計画案, 指導案の立案作成, 教材研究</p> <p>第4回 模擬授業の実施(1)</p> <p>第5回 模擬授業の実施(2)</p> <p>第6回 栄養教育実習の報告・発表(1) 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第7回 栄養教育実習の報告・発表(2) 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第8回 相互評価, 実習の反省, 問題点の整理, 今後の課題</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	発表・提出物(80%) + 取り組み態度(20%)により評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。				

20 司書教諭に関する科目

授業科目	学校経営と学校図書館		担当者	岩下 雅子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】従来の学校図書館から、さらに変化し続ける“新しい学校図書館”について理解する</p> <p>【概要】学校図書館はいつ頃、どのような歴史を経て現在の学校図書館へと移り変わってきたのでしょうか。現在の学校図書館が公共図書館、公共施設、地域と積極的に相互協力・連携するようになったのはなぜでしょう。多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察します。</p> <p>【到達目標】 学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)							
授業スケジュール	第1回 学校図書館の理念と教育的意義、 第2回 世界・日本の学校図書館史 第3回 鹿児島県の学校図書館史 第4回 鹿児島県の学校図書館の現状 第5回 学校図書館法 第6回 学校経営の中の学校図書館 第7回 学校図書館の運営(1)－小学校の事例を中心に 第8回 学校図書館の運営(2)－中学校の事例を中心に 第9回 学校図書館の運営(3)－高校の事例を中心に 第10回 学校図書館とネットワーク(1) PTA、地域との連携 第11回 学校図書館とネットワーク(2) 公共図書館との連携 第12回 学校図書館の施設・設備 第13回 学校図書館をデザインする 第14回 学校図書館と司教諭の役割 第15回 学校図書館の課題と展望							
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること							
成績評価の方法	筆記試験(70%) 授業ごとに実施するレポート(30%)							

(注)

授業科目	学校図書館メディアの構成		担当者	岩下 雅子				
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	メールによる				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 多様化した今日の情報メディアを学校図書館でどのように扱うか学ぶ</p> <p>【概要】学校図書館メディアとは何だろう。高度情報化社会、知識基盤社会、知識経済社会の中で、児童生徒を取り巻く学習環境も大きく変化(教育課程の変化)している。この科目では、学校図書館メディアの構築のために、適切な情報・資料の選択収集・整理(組織化)・提供・保存の仕方をどのように学校図書館は行うか考察する。</p> <p>【到達目標】 学校図書館メディア化の組織化と司書教諭の果たす役割を学ぶ</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント配布 (2)							
授業スケジュール	第1回 学習環境の変化と学校図書館メディアの現状 第2回 学校図書館メディアとその活用 第3回 学校図書館メディアの構築 第4回 学校の教育方針とメディア選択 第5回 学校図書館メディアの組織化(収集と整理) 第6回 学校図書館をデザインする(1)一本棚、分類、配架 第7回 学校図書館をデザインする(2)一目録～ネットワーク 第8回 日本十進分類法(1) 第9回 日本十進分類法(2) 第10回 学校図書館と目録(1) 第11回 学校図書館と目録(2) 第12回 件名目録 第13回 学校図書館とネットワーク 第14回 特別支援と学校図書館メディア 第15回 学校図書館メディアのまとめ							
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること							
成績評価の方法	筆記試験(60%) 授業ごとに実施するレポート(40%)							

授業科目	読書と豊かな人間性	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	オフィスアワーに準じる
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトーク、アニメーションなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 黒古一夫・山本順一編著『読書と豊かな人間性』(メディア専門職養成シリーズ)学分社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 子どもと読書：現代社会と読書</p> <p>第2回 読書推進行政の法制度：読書教育を支える仕組み</p> <p>第3回 学校教育と読書1：学校図書館の役割</p> <p>第4回 学校教育と読書2：教科教育と読書</p> <p>第5回 児童生徒と読書資料1：子どもの本の種類</p> <p>第6回 児童生徒と読書資料2：本の流通の仕組みと選書</p> <p>第7回 読書活動1：学校での読書イベント クラブ活動や委員会</p> <p>第8回 読書活動2：読書案内、ブックトーク</p> <p>第9回 読書活動3：読み聞かせとストーリーテリング</p> <p>第10回 読書活動4：アニメーション</p> <p>第11回 読書の記録と交流：読書感想文・感想画、読書会など</p> <p>第12回 子どもの読書環境：地域との連携、家庭読書</p> <p>第13回 大人と読書：生涯学習・サークル活動</p> <p>第14回 実演1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニメーションなど</p> <p>第15回 実演2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニメーションなど</p>		
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。		
成績評価の方法	課題提出(50%)と、授業第14回、15回での実演(50%)		

授業科目	情報メディアの活用	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】</p> <p>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。</p> <p>学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社、適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 高度情報化社会と人間：情報化社会と司書教諭の役割</p> <p>第2回 情報メディアの歴史の変遷</p> <p>第3回 学校教育と情報メディア</p> <p>第4回 情報メディアの種類と特性</p> <p>第5回 情報メディアの選択：状況に応じた選択の必要と留意点</p> <p>第6回 視聴覚メディアの活用</p> <p>第7回 情報メディアの活用1：コンピュータの活用と運用</p> <p>第8回 教育メディアの活用2：教育用ソフトウェアの活用</p> <p>第9回 情報メディアの活用3：データベースと情報検索</p> <p>第10回 情報メディアの活用4：インターネットと情報検索</p> <p>第11回 情報メディアの活用5：インターネットによる情報発信</p> <p>第12回 情報セキュリティ</p> <p>第13回 ネットワーク環境と学校教育</p> <p>第14回 学校図書館メディアと著作権</p> <p>第15回 まとめ：情報メディア活用の課題と将来</p>		
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。		
成績評価の方法	授業での課題(30%)、期末試験(70%)		